

# 平成26年度LCA日本フォーラム総会資料

- 第1号議案 平成25年度活動実績報告書 . . . . . 資料1
- 第2号議案 平成25年度収支決算書 . . . . . 資料2
- 第3号議案 平成26年度活動計画書 . . . . . 資料3
- 第4号議案 平成26年度収支予算書 . . . . . 資料4
- 第5号議案 平成26年度役員 . . . . . 資料5

参考資料1 平成26年度 専門委員会名簿

参考資料2 LCA日本フォーラム規約

平成26年7月1日  
13時00分～13時45分  
於：學士会館 210号室

LCA日本フォーラム  
事務局：一般社団法人 産業環境管理協会



# 平成25年度活動実績報告書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

## 1. 会議関係活動

### 1-1. 総会

◇平成25年7月8日 於 學士会館 210号室

平成25年度LCA日本フォーラム役員選任(案)を承認し、平成24年度活動実績報告書(案)、平24年度収支決算書(案)、平成25年度活動計画書(案)及び平成25年度収支予算書(案)を審議し承認した。

<平成25年度役員(敬称略)>

- |         |        |   |
|---------|--------|---|
| 1. 会長:  | 山本 良一  | 東京都市大学 環境情報学部 特任教授<br>東京大学 名誉教授                                   |
| 2. 副会長: | 稲葉 敦   | 工学院大学 工学部 教授  |
|         | 足立 芳寛  | 東京工科大学 客員教授   |
|         | 古賀 剛志  | 特定非営利活動法人 エコデザイン推進機構 理事   |
|         | 片瀬 裕文  | 経済産業省 産業技術環境局 局長  |
|         | 奥平 総一郎 | 一般社団法人日本自動車工業会 環境委員会委員長<br>トヨタ自動車株式会社 専務役員                        |
|         | 進藤 孝生  | 一般社団法人日本鉄鋼連盟<br>環境・エネルギー政策委員会 委員長<br>(当時)新日鉄住金株式会社 代表取締役副社長       |
|         | 小川 賢治  | 一般社団法人日本経済団体連合会<br>環境安全委員会 廃棄物・リサイクル部 部会長代行<br>太平洋セメント株式会社 常務執行役員 |
| 3. 監事:  | 笠井 清   | 一般社団法人日本化学工業協会 技術部 部長   |
|         | 二神 龍太郎 | キヤノン株式会社 環境統括センター 環境推進部 部長  |

### 1-2. 運営委員会

1回開催し、総会付議事項を審議、承認した。

◇第1回 平成25年 6月27日 於 エッサム神田ホール 601会議室

出席: 委員 18名、事務局 3名

議案: ・総会付議事項について(審議)

平成24年度活動実績報告書(案)、平成24年度収支決算書(案)、平成25年度活動計画書(案)及び平成25年度収支予算書(案)を審議、承認した。

・各専門委員会、研究会の活動について(報告)

### 1-3. LCA/DB委員会

2回開催し、LCA日本フォーラムデータベース活用状況の確認と「LCA日本フォーラムデータベース管理手法検討」について報告、検討した。1回のメール審議により、「LCA日本フォーラムデータベース管理手法検討」業務報告の承認をした。

◇第1回 平成25年 6月18日 於 産業環境管理協会 会議室

出席: 委員 13名、オブザーバー 3名、事務局 4名

議案: ・平成24年度 JLCA データベース利用・更新実績について

・「LCA日本フォーラムデータベース管理手法検討」について

・各工業会の LCA 活動の状況について

◇第2回 平成25年10月22日 於 産業環境管理協会 会議室

出席：委員 14名、オブザーバー 3名、事務局 4名  
議案：・「LCA日本フォーラムデータベース管理手法検討」(中間報告)について  
・JLCA データベース利用・更新実績について

◇メール審議 1回

・「LCA日本フォーラムデータベース管理手法検討」業務報告

#### 1-4. 情報企画委員会

3回開催し、セミナー開催計画、ニュースレター発行計画及び情報発信等の普及活動について検討した。

◇第1回 平成25年 5月27日 於 産業環境管理協会 会議室

出席：委員 7名、事務局 2名

◇第2回 平成25年 9月 9日 於 産業環境管理協会 会議室

出席：委員 9名、事務局 2名

◇第3回 平成25年12月20日 於 産業環境管理協会 会議室

出席：委員 9名、事務局 2名

(上記共通)議案：・平成25年度セミナー開催実績・計画  
・JLCAニュースレター発行実績・計画  
・情報発信、普及活動について

#### 1-5. 研究活動委員会

1回開催し、会員間相互の情報交流を目的とした、LCA、環境効率関連をテーマにした研究企画を検討した。1回のメール審議により、新規研究会設置の承認をした。

◇第1回 平成25年 6月 3日 於 産業環境管理協会 会議室

出席：委員 5名、事務局 2名

議案：・平成24年度 研究会活動報告  
・平成25年度 新規研究会設置についての検討  
・新規研究会「SCOPE3 と組織の LCA 研究会」設置提案について

◇メール審議 1回

・新規研究会「容器包装の環境効率」の設置についての承認

#### 1-6. LCA日本フォーラム表彰選考委員会

「平成25年度 第10回LCA日本フォーラム表彰」に関する各賞最終選考を行った。

◇平成25年12月 6日 於 経済産業省 別館 626会議室

出席：委員 10名、オブザーバー 2名、事務局 3名

議題：・表彰選考 WG による事前審査結果について(報告)

・第10回LCA 日本フォーラム表彰の最終選考について(審議)

#### 1-7. LCA日本フォーラム表彰選考ワーキンググループ

2回開催し、「平成25年度 第10回LCA日本フォーラム表彰」に関する募集要項を検討し、応募申請内容の事前審査を行い、その結果をLCA日本フォーラム表彰選考委員会に提出した。

◇第1回 平成25年 8月 1日 於 産業環境管理協会 会議室

出席：委員 5名、事務局 2名

議案：・平成25年度 第10回LCA日本フォーラム表彰 募集要項等の検討  
・平成25年度 第10回LCA日本フォーラム表彰 広報活動の検討

◇第2回 平成25年11月28日 於 産業環境管理協会 会議室

出席：委員 5名、事務局 2名

議案：・WG委員による事前審査結果について

◇事前審査 委員 6名、 応募件数 14件

## 2. JLCAデータベース管理活動

### 2-1. データベース運用実績

データベースログイン実績 約1,950件 (前年 約2,600件)

データダウンロード実績 約750件 (前年 約970件)

### 2-2. データ新規追加・更新状況

■2013年度 3版 (2013/10/1-2013/12/31)

一般社団法人セメント協会のインベントリデータを3件更新

- 1 ポルトランドセメント製造
- 2 高炉セメントB種製造
- 3 フライアッシュセメントB種製造

LIME2の特性化係数リスト : 都市域大気汚染の係数を修正

### 2-3. JLCAデータベース調査活動

LCA/DB委員会において、前年度のヒアリングで収集した意見をもとに、JLCAデータベース更新および利便性向上のあり方について、さらなるヒアリングを行いつつ、工業会・企業に過度な負担とならないよう経済合理性を踏まえた仕組みを検討する「JLCAデータベース管理手法検討業務」を実施し、LCA/D B委員会に報告した。

## 3. 研究会活動

### 3-1. 「電子メディア」研究会

◇「電子メディア」WGメンバー

委員長 田原聖隆(独立行政法人産業技術総合研究所 社会とLCA研究グループ長)

委員 清水印刷紙工株式会社

株式会社富士通研究所

WGメンバー 大日本印刷株式会社

◇「電子メディア」研究会 実施内容

1. LCA 算定項目の検討、ICT サービスの評価範囲について
2. システム開発における環境負荷の算定方法について
3. 書籍購読実態のアンケート調査の実施
4. 国際会議 「19th SETAC LCA Case Study Symposium」(2013年11月)にて発表
5. 「International Journal of Life Cycle Assessment」へ論文投稿予定

第10回	平成25年	4月9日	於	産業環境管理協会	会議室
第11回	平成25年	6月26日	於	産業環境管理協会	会議室
第12回	平成25年	7月29日	於	産業環境管理協会	会議室
第13回	平成25年	8月9日	於	産業環境管理協会	会議室
第14回	平成25年	9月3日	於	産業環境管理協会	会議室
第15回	平成25年	9月27日	於	産業環境管理協会	会議室
第16回	平成25年	10月24日	於	産業環境管理協会	会議室
第17回	平成25年	12月13日	於	産業環境管理協会	会議室
第18回	平成26年	1月8日	於	産業環境管理協会	会議室
第19回	平成26年	2月21日	於	産業環境管理協会	会議室
第20回	平成26年	3月10日	於	産業環境管理協会	会議室

### 3-2. 「ICT事業の組織のLCA」研究会

◇「ICT事業の組織のLCA研究会」WGメンバー

委員長 松野泰也(東京大学大学院工学系研究科研究科マテリアル工学専攻 准教授)

委員 NTT環境エネルギー研究所

WGメンバー 株式会社NTTデータ 株式会社日立製作所  
日本電気株式会社 (NEC) 富士通株式会社  
富士ゼロックス株式会社 株式会社東芝

◇「ICT事業の組織のLCA」研究会 実施内容

1. L1410を踏まえた企業総体のbyICT効果算出集計方法の構築。
2. 本集計方法により、企業が環境目標を定量的に設定(KGI:重要目標達成指標)し、目標の達成度を定量的に管理(KPI:重要業績評価指標)公開できるガイドライン作成を目指す。

第3回 平成25年 8月 2日 於 エッサム神田ホール 902会議室

第4回 平成25年 9月26日 於 エッサム神田ホール 902会議室

第5回 平成25年12月19日 於 産業環境管理協会 会議室

第6回 平成26年 3月25日 於 産業環境管理協会 会議室

### 3-3. 「SCOPE3と組織のLCA」研究会

◇「SCOPE3と組織のLCA」WGメンバー

委員長 稲葉 敦(工学院大学 工学部 環境エネルギー化学科 教授)

委員 本下晶晴(独立行政法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門 主任研究員)

WGメンバー 株式会社 資生堂 旭化成株式会社  
三菱電機株式会社 サンメッセ株式会社  
富士通株式会社 パナソニック株式会社  
株式会社東芝

アドバイザー みずほ情報総研株式会社

◇「SCOPE3と組織のLCA」研究会 実施内容

「SCOPE3」と「組織のLCA」の計算方法の事例作成と計算方法の確立。企業事例より検討する。

第1回 平成25年 9月 5日 於 産業環境管理協会 会議室

第2回 平成25年10月15日 於 エッサム神田ホール 902会議室

第3回 平成25年11月27日 於 エッサム神田ホール 902会議室

第4回 平成26年 1月 9日 於 産業環境管理協会 会議室

第5回 平成26年 2月28日 於 産業環境管理協会 会議室

## 4. 普及・情報交流活動

### 4-1. LCA日本フォーラムセミナー開催

- ① 平成25年度 LCA日本フォーラム総会記念セミナー

日時: 平成25年7月8日

場所: 學士会館 210号室

参加: 180名(フォーラム会員、非会員、講演者、関係者)

内容: 開会講演「エコ文明へ転換のためのLCAの課題」

LCA日本フォーラム 会長 山本 良一 (東京大学 名誉教授)

特別講演「温暖化への対応とLCA的視点」

公益財団法人 地球環境産業技術研究機構 理事長 茅 陽一

特別講演 「LCAの最新動向」

LCA日本フォーラム 副会長 稲葉 敦 (工学院大学 工学部 教授)

特別講演 「なぜ今ウォーターフットプリントなのか」

東京大学 生産技術研究所 教授 沖 大幹

② 平成25年度第2回 LCA日本フォーラムセミナー「生物多様性とLCA」

日時: 平成25年10月28日

場所: 大手町ファーストスクエアカンファレンス

参加: 180名(フォーラム会員、非会員、講演者、関係者)

内容 講演1 「生物多様性をどう評価するのか:行政・企業の取り組みを中心に」

金沢大学大学院 人間社会環境研究科 准教授 香坂 玲

講演2 「生態系保全の従業員教育の最前線(WBCSDの活動紹介)」

株式会社日立製作所 CSR・環境戦略本部 河野文子

講演3 「CDPのナチュラル・キャピタル開示活動」

CDP事務局 ジャパンディレクター 森澤みちよ

講演4 「LCAにおける生物多様性評価」

東京都市大学 環境学部 教授 伊坪徳宏

企業事例 「ICTと生物多様性 ―研究会活動報告と企業事例紹介―」

NTT環境エネルギー研究所 グリーンマテリアルプロジェクト 高橋和枝

ラップアップ&ディスカッション

座長: 東京都市大学 環境学部 教授 伊坪徳宏

③ 平成25年度第3回 LCA日本フォーラムセミナー<大阪開催>

日時: 平成25年11月20日

場所: TKP 大阪梅田ビジネスセンター

参加: 60名(フォーラム会員、非会員、講演者、関係者)

内容 講演1 「マテリアルフローコスト会計とLCA」

関西大学 商学部 教授 中嶋 道靖

講演2 「小型家電リサイクルへの取り組み」

神戸山手大学 現代社会学部 総合社会学科 教授 中野 加都子

工業会の活動1 「電機業界におけるLCA評価の取組み」

一般社団法人日本電機工業会 環境部 桑原 優

工業会の活動2 「セメント協会におけるLCAの取組み」

一般社団法人セメント協会 生産・環境部門リーダー 細川 浩之

企業事例1 「SKYACTIV TECHNOLOGYを搭載したマツダ車のLCA評価」

マツダ株式会社 技術企画部 環境安全企画 G アシスタントマネージャー 森口 義久

企業事例2 「商品開発プロセスにおけるLCA活用事例の紹介」

パナソニック株式会社 モノづくり本部 環境・品質センター 佐々木 秀樹

④ LCAフォーラム表彰「平成25年度第10回LCA日本フォーラム表彰記念講演」

日時: 平成26年 1月23日

場所: イイノホール&カンファレンスセンター

参加: 150名(フォーラム会員、非会員、講演者、関係者)

内容: 第10回LCA日本フォーラム表彰受賞者 (5. LCA日本フォーラム表彰参照)

⑤ 平成25年度LCA日本フォーラム/日本LCA学会共催セミナー

「環境マネジメントに関する国際規格、海外の動向」



## 5. LCA日本フォーラム表彰

LCA、環境効率に係わる優れた活動を表彰する「平成25年度第10回LCA日本フォーラム表彰」が実施され、「経済産業省産業技術環境局長賞」、「LCA日本フォーラム表彰10周年記念特別賞」をはじめ、下記の通り表彰した。

### ■第10回LCA日本フォーラム表彰

部門	受賞者	活動の名称
<b>経済産業省産業技術環境局長賞</b>		
研究・ 教育・ 普及	一般社団法人 日本電機工業会 環境部 環境技術専門委員会 LCA-WG 技術部 重電・産業システム機器 LCA 検討 WG	電機業界におけるライフサイクル CO2 算出手法の確立および評価事例の公開と普及活動
<b>LCA日本フォーラム会長賞(2件)</b>		
研究・ 教育・ 普及	川崎市 川崎市市長 福田 紀彦	「域外貢献量算定ガイドライン」の策定と「川崎メカニズム」の構築による低炭素社会の実現に向けた取組
研究・ 教育・ 普及	一般社団法人 日本自動車部品工業会 会長 玉村 和己 (日本発条株式会社 取締役社長)	自動車部品の環境負荷算定ガイドラインの策定及び算出ツールの開発
<b>LCA日本フォーラム奨励賞(4件)</b>		
研究・ 教育・ 普及	一般社団法人 日本自動車タイヤ協会 会長 津谷 正明	「タイヤの LCCO2 算定ガイドラインの策定」及び「ラベリング制度の導入」など業界一体となった温室効果ガス(GHG)排出量削減活動の推進
環境 経営	キヤン株式会社 環境統括センター 所長 古田 清人	ライフサイクルアセスメントを活用した CO2 を低減する製品開発プロセスへの取組み
環境 経営	武田薬品工業株式会社 製薬本部 EHS推進部長 渡邊 一憲	用役分野におけるMFCAを活用した工場の省エネルギー
環境 ユニケー ション	住江織物株式会社 代表取締役社長 吉川 一三	水平リサイクルタイルカーペット ECOS シリーズの開発と普及
<b>功労賞(2名)</b>		
酒井清次 (元 信越化学工業株式会社 塩ビ事業本部 塩化ビニル環境対策協議会 調査委員会 副委員長)		
須田 茂(元 社団法人産業環境管理協会 理事)		

### ■LCA日本フォーラム表彰 特別賞

部門	受賞者	活動の名称
<b>LCA日本フォーラム表彰10周年記念特別賞</b>		
	株式会社東芝 代表執行役社長 田中 久雄	東芝グループの環境経営

## 6. 国際対応活動

海外動向調査として以下の国際会議へ専門家を派遣した。

◇国際会議「Society and Materials Conference: SAM-7」(April 25-26, 2013, Germany)

日時:2013年 4月25日～26日

場所:ドイツ

派遣者 東京大学大学院 工学系研究科 マテリアル工学専攻 准教授 松野 泰也  
(4-2. JLCAニュースレター発行:第63号参照)

◇国際会議 「6th International Conference on Life Cycle Management - LCM 2013」

日時:2013年 8月25日～28日

場所:ヨーテボリ、スウェーデン

派遣者 一般社団法人産業環境管理協会 LCA事業推進センター 主査 中野 勝行  
(平成26年度第2回LCA/DB委員会にて報告)

◇国際会議 「1st PEF World Summit」

日時:2013年10月8日～9日

場所:ベルリン、ドイツ

主催:PEF World Forum

派遣者 一般社団法人産業環境管理協会 LCA事業推進センター 副所長 神崎 昌之  
(4-1. LCA日本フォーラムセミナー開催:⑤参照)

## 7. カーボンフットプリント日本フォーラムの事業活動の継承

カーボンフットプリント日本フォーラムは、平成25年9月末日に解散となり、さらなるLCAコミュニケーションの発展を目指すべく活動に関して、LCA日本フォーラムへ活動の場が継承された。併せて、カーボンフットプリント日本フォーラムの残余財産と知的財産(ホームページ掲載の各種報告書等)を継承した。

以上

## 平成25年度LCA日本フォーラム収支決算書

## 1 一般事業収支

(単位:円)

	科目	H25年度 予算額	H25年度 決算額	比較増減	
<b>I</b>	<b>収入の部</b>				
1	会費	17,154,000	16,394,000	△ 760,000	@ 100,000 円× 19 工業会 I = 1,900,000 @ 400,000 円× 2 工業会 II = 800,000 @ 600,000 円× 1 工業会 II = 600,000 @ 30,000 円× 21 工業会 III = 630,000 @ 80,000 円× 7 団体 = 560,000 @ 100,000 円× 1 学術組織 = 100,000 @ 50,000 円× 91 優先企業A = 4,550,000 @ 20,000 円× 1 優先企業A* = 20,000 @ 30,000 円× 1 優先企業B = 30,000 @ 80,000 円× 35 一般企業A = 2,800,000 @ 20,000 円× 1 一般企業A* = 20,000 @ 50,000 円× 21 一般企業B = 1,050,000 @ 30,000 円× 44 一般企業C = 1,320,000 @ 30,000 円× 46 大学等 = 1,380,000 @ 13,000 円× 48 個人 = 624,000 @ 5,000 円× 2 個人* = 10,000 (*旧環境効率フォーラム移管会員)
2	特別DB利用料	140,000	140,000	0	@ 7,000 円× 20 LCA学会 = 140,000
3	セミナー参加費	200,000	297,000	97,000	
4	雑収入	4,000	76,643	72,643	利息 3,395 CFP日本フォーラム残金 73,248
<b>当期収入合計(A)</b>		<b>17,498,000</b>	<b>16,907,643</b>	<b>△ 590,357</b>	
<b>II</b>	<b>支出の部</b>				
1	委員会関係費	500,000	475,260	△ 24,740	委員謝金 103,000 委員旅費 233,620 会場費 106,240 会議費 32,400
2	研究会活動費	1,500,000	1,267,500	△ 232,500	研究会活動費 ・SCOPE3と組織のLCA 177,580 ・ICTと組織のLCA 95,440 ・電子メディア研究会 994,480
3	システム維持管理費	4,800,000	4,644,830	△ 155,170	データベースサーバー保守・管理費 815,000 レンタルサーバー利用費 149,430 データ更新調査費 (DB管理手法検討) 3,000,000 ホームページ更新・管理費 680,400
4	セミナーシンポジウム	3,300,000	3,103,374	△ 196,626	講師謝金・旅費 635,800 会場費 1,256,920 印刷費 784,192 会議費 426,462
5	表彰費	1,500,000	1,755,932	255,932	委員会、審査、表彰式、講演一式 1,755,932
6	広報誌発行費	500,000	198,000	△ 302,000	原稿料 198,000
7	国際対応活動費	2,050,000	986,782	△ 1,063,218	海外調査 956,782 TC207協力金 (H25年度分) 30,000
8	日本LCA学会会費	100,000	100,000	0	日本LCA学会 (H25年分) 100,000
9	CFP日本フォーラム協力金	0	0	0	CFP日本フォーラム (H25年度分) 0
10	事務局人件費	2,850,000	2,506,000	△ 344,000	事業支出額の約20% 2,506,000
11	事務局経費	630,000	480,682	△ 149,318	事務局人件費の約15% 375,900 実費経費 104,782
<b>当期支出合計(B)</b>		<b>17,730,000</b>	<b>15,518,360</b>	<b>△ 2,211,640</b>	
<b>当期収支差額 (A-B)</b>		<b>△ 232,000</b>	<b>1,389,283</b>	<b>1,621,283</b>	
<b>前年度繰越金 (C)</b>		<b>5,265,538</b>	<b>5,265,538</b>	<b>0</b>	
<b>次期繰越収支差額 (A-B+C)</b>		<b>5,033,538</b>	<b>6,654,821</b>	<b>1,621,283</b>	

## 2 特別収支 (システム更新積立金)

(単位:円)

	科目	H25年度 予算額	H25年度 決算額	比較増減	
<b>I</b>	<b>収入の部</b>				
	当期収入合計(D)	0	0	0	
<b>II</b>	<b>支出の部</b>				
	当期支出合計(E)	0	0	0	
	当期収支差額 (D-E)	0	0	0	
	前年度繰越金 (F)	8,968,700	8,968,700	0	
	次期繰越収支差額 (D-E+F)	8,968,700	8,968,700	0	

# 会計監査確認書

平成25年度 LCA 日本フォーラム会計書類を監査し、その正当なることを確認致しました。

平成26年4月24日

監事

東京都中央区新川1丁目4番1号  
一般社団法人日本化学工業協会  
技術部

部長 笠井 清



監事

東京都大田区下丸子3丁目30番2号  
キヤノン株式会社  
環境統括センター 環境推進部

部長 二神 龍太郎



## 平成26年度活動計画書 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

ウォーターフットプリント、組織のLCAなどのISO規格化動向、欧州委員会における環境フットプリントやGHGプロトコルにおけるScope3の進展、あるいは、自治体・工業会におけるGHG排出量の削減貢献量の取り組みなど、LCAの活用が国内外に広がっている。

こうした中、LCA日本フォーラム(以下、「JLCA」)は、次年度の平成27年10月に、設立から満20周年の節目を迎える。この節目を迎えるにあたり、平成10年からの第1期LCAプロジェクト以来の成果を広く我が国産業界に一元的に公開し続け、LCAの発展に欠くことのできないLCAデータベース(JLCA-DB)の利便性向上を図るとともに、今後の在り方について広く議論を行い、さらなる発展を期すこととする。

その他、今年度も下記を柱とした活動を行う。

- ① LCAデータベース(JLCA-DB)運営管理及び積極的活用の促進
- ② LCA日本フォーラム表彰の実施
- ③情報発信活動としてセミナーの開催およびメールマガジンの発刊
- ④LCAと環境効率の研究会活動の活発化
- ⑤国際動向の積極的な調査

### 1. 事業内容

#### 1-1. JLCA-DB活用促進及び運営管理に係わる活動の実施

平成25年度に引続き、工業会提供データの維持管理体制を確保し、データ収載、更新を実施する。

LCA日本フォーラムでは、データベース委員会を中心に我が国の産業界に必要なLCIデータベースのあり方について検討するため平成24、25年度にわたってデータベースの管理手法に関する調査事業を実施してきた。本調査では、日本のデータ及びデータベースについて使い勝手の良さなど利便性の向上に対して高いニーズがあり、今後、こうしたニーズに対応した我が国におけるデータ整備、更新(管理)、利用の活性化を図っていくことが必要であることを確認した。

こうした状況を受け、平成26年度においては経済産業省と協働して、LCA日本フォーラムの工業会データと、統計データ等の活用により網羅性を高めたデータベース(IDEA)の統合・整備に取組み、今後のデータベース運営の在り方の検討を内容とした「データベース整備事業(仮称)」(※別添資料)に取り組むものとする。

#### 1-2. 研究会活動の実施

- ① 平成25年度に引続き、下記の研究会活動の継続を実施する。
  - 「ICT(情報通信技術)事業の組織のLCA」研究会
  - 「SCOPE3と組織のLCA」研究会
  - 「容器包装の環境効率」研究会
- ②研究活動委員会にて新規2件程度の研究会を設置し、WGメンバーを公募にて募集し、各研究会の委員長を中心に研究会を実施する。

### 1-3. LCA表彰事業活動の実施

- ① 日本国内のLCAと環境効率に係わる優れた活動および製品・サービスを表彰する。
  - 経済産業省産業技術環境局長賞(予定)
  - LCA日本フォーラム会長賞
  - LCA日本フォーラム奨励賞
- ② LCA表彰 受賞者の表彰式と表彰記念講演会を実施する(1月)

### 1-4. 情報発信活動の実施

- ① LCAと環境効率に関連したセミナーを5回程度開催する。
  - 定期セミナー(総会記念セミナー、LCA表彰記念講演会)
  - 最新動向を中心に、国際規格等の関心度の高いテーマを選定(11月、3月)
  - 九州エリアでのセミナー開催(10月)
- ② LCAと環境効率に関連した情報掲載の「フォーラムニュース」を4刊程度発刊する。
- ③ ホームページのコンテンツの充実を図る。
- ④ メールマガジン等により、LCAと環境効率に関連する情報を提供する。

### 1-4. 国際動向調査と国際会議等への協力

- ① 国際動向調査としての国際会議へ専門家を派遣する。
- ② 国際会議、学会等への協力
  - TC207
  - 日本LCA学会等
  - 第11回エコバランス国際会議

## 2. 年間スケジュール予定

### 2-1. 委員会

- ① 通常総会 年1回 (7月1日)
- ② 運営委員会 年2回程度 (6月、3月)
- ③ LCA/DB委員会 年3回程度 (6月、11月、2月)
- ④ 情報企画委員会 年3回程度 (5月、9月、12月)
- ⑤ 研究活動委員会 年2回程度 (5月、10月) またはメール審議
- ⑥ 表彰選考委員会 年1回程度 (最終選考12月)
- ⑦ 表彰選考ワーキンググループ 年2回程度(8月、11月)

### 2-2. 情報発信

- ① セミナー開催 年5回程度 (7月、10月、11月、1月、3月)
- ② ニュースレター発刊 年4回程度 (10月~2月)
- ③ ホームページ更新(ニュース配信随時、コンテンツ改訂等)

以上

## LCA日本フォーラム 平成26年度データベース整備事業(仮称)

LCA 日本フォーラム  
データベース委員会

### 1. 背景及び提案趣旨

LCA 日本フォーラムでは、データベース委員会を中心に我が国の産業界に必要な LCI データベースのあり方について検討するため平成 24、25 年度にわたってデータベースの管理手法に関する調査事業を実施してきた。

本調査では、日本のデータ及びデータベースについて使い勝手の良さなど利便性の向上に対して高いニーズがあり、今後、こうしたニーズに対応した我が国におけるデータ整備、更新(管理)、利用の活性化を図っていくことが必要であることを確認した。

こうした状況を受け、経済産業省からも協力の呼びかけがあり、産業技術総合研究所等と今後の進め方等について協議を行ってきた結果、LCA フォーラム、産業技術総合研究所、産業管理環境協会および経済産業省の協働により、LCA 日本フォーラムの工業会データ(J-LCA-DB)と、統計データ等の活用により網羅性を高めたデータベース(IDEA)の統合・整備に向けた調査を行い、併せて今後のデータベースの運営の在り方を検討する「データベース整備事業(仮称)」を推進していくとの提案に至った。

今般、以上を踏まえて LCA 日本フォーラムにおいても会員相互の理解と合意を持って本事業を推進していくことを提案する。

### 2. 事業実施主体と予算計上

#### 実施主体構成

- ・ LCA 日本フォーラム
- ・ 独立行政法人産業技術総合研究所
- ・ 一般社団法人産業環境管理協会
- ・ 経済産業省 連携予定

#### 実行予算(案)

- ・ LCA 日本フォーラム(年会費及び積立金取崩):1,000 万円
- ・ AIST 及び JEMAI:人件費 1,000 万円
- ・ 経済産業省:平成 26 年度委託事業により公募予定

### 3. 実施内容

#### (1) J-LCA-DBとIDEA 統合

- ・ ①システムバウンダリー妥当性、②データ品質、③利用可能データ抽出、④ライフサイクルフロー図策定、⑤各種データ連結 等
- ・ 具体的な J-LCAとIDEA 統合作業の進め方は、以下のとおり。
  - a) 工業界データ(約 400 データ)とIDEA の統合作業
  - b) データ作成・検証基準策定作業部会
  - c) データ管理システム改訂
  - d) 統合データ検証・調整作業
  - e) 欠落データの補完作業

#### (2) 将来のデータベース運営・管理体制の検討

- ・ 「データベースの維持・補完」、「データベースの運用」等の各実施主体者と、全体の体制について協議する。

### 4. スケジュール

平成 26 年度データベース調査事業	
事業全体	LCA 日本フォーラム
5 月～6 月上旬： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AIST 及び JEMAI と LCA 日本フォーラム間で J-LCA-DB と IDEA 統合・開発についての作業工程等を検討。</li> </ul> 7 月上旬～年度末： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ J-LCA-DB と IDEA 統合作業開始</li> <li>・ 将来のデータベース運営・管理体制の検討</li> </ul>	5 月～6 月上旬： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ LCA 日本フォーラム 工業会会員等、役員、運営委員会委員長・副委員長、データベース委員会委員長・副委員長とで事前協議。</li> </ul> 6 月 12 日： データベース委員会 6 月 20 日： 運営委員会 7 月 1 日： 総会(本事業の協働実施の説明、審議)
	月： データベース委員会(調整中) 3 月： 運営委員会

## J-LCAとIDEA 統合について

### ○JLCA データベース(LCA日本フォーラム:工業会・産環協)

経産省及びNEDO事業(LCAプロジェクト)によって平成10～14年度の5年間実施成果としてのデータベース。インベントリ分析用データ、インパクト評価用データ、文献データによって構成。

日本国内の54の工業会が作成(工業会提供データ)とデータの管理主体であるLCA日本フォーラムがLCAプロジェクト等を通じて独自に作成(445)、及び調査会社等の第三者に依頼して作成431(参考データ:主に廃棄リサイクル段階におけるデータを対象)、LCA日本フォーラムの会員が作成3(自主的提供データ)の3種が存在。

JLCA データベースに収録されているデータは、ほぼ個々のプロセスを対象範囲とした単位プロセス型(Gate-to-Gate)のデータ。

なお、JLCA データベースの利用者は対象範囲よりも川上のプロセスに係る環境負荷を自ら計上してプロセス合算型(Cradle-to-Gate)のデータにすることが必要。また、JLCA データベースの対象は、14の環境排出物質(CO<sub>2</sub>、CH<sub>4</sub>、HFC、PFC、N<sub>2</sub>O、SF<sub>6</sub>、NO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub>、煤塵、BOD、COD、全リン、全窒素、懸濁物質)を対象。

### ○IDEA (Inventory Database for Environmental Analysis)

産業技術総合研究所(AIST)と産業環境管理協会(JEMAI)によって共同開発されたデータベース。JEMAIのLCA実施支援ソフトウェア・MiLCAに初期搭載。

統計情報を元に作成したデータで産業分類上での網羅性を確保し、使用頻度の高い製品について詳細なデータが用意され、LCAを実施する上で“少なくとも何らかのデータがある”がIDEA開発コンセプトのひとつ。データ数は約3,000。現在AISTがVer.2の開発中。

IDEAは網羅性を重視し、日本標準産業分類に従った業種別分類、品目別分類等に基づいてすべての製品をコード化したデータベース分類を作成し、この分類に従い全ての製品についてデータを作成。更に、詳細分類に分類される個々の製品のデータは個別データとして収録。

データの作成方法は、1) 統計によるデータ作成、2) モデル化によるデータ作成、3) 文献・調査報告書からのデータ作成の3種。データとして単位プロセス型(Gate-to-Gate)のデータが整備され、MiLCAの機能を用いることにより、プロセス合算型(Cradle-to-Gate)のデータを抽出することが可能。

IDEAでは、地球温暖化、酸性化、資源消費の評価が可能。また、水資源消費、富栄養化、固形廃棄物の排出についても、評価が可能となることを努力目標として掲げ、特に水資源消費は、IDEAのVer.2の開発において重要な位置付け。

## ■ J-LCAとIDEAの長所/短所は相補的

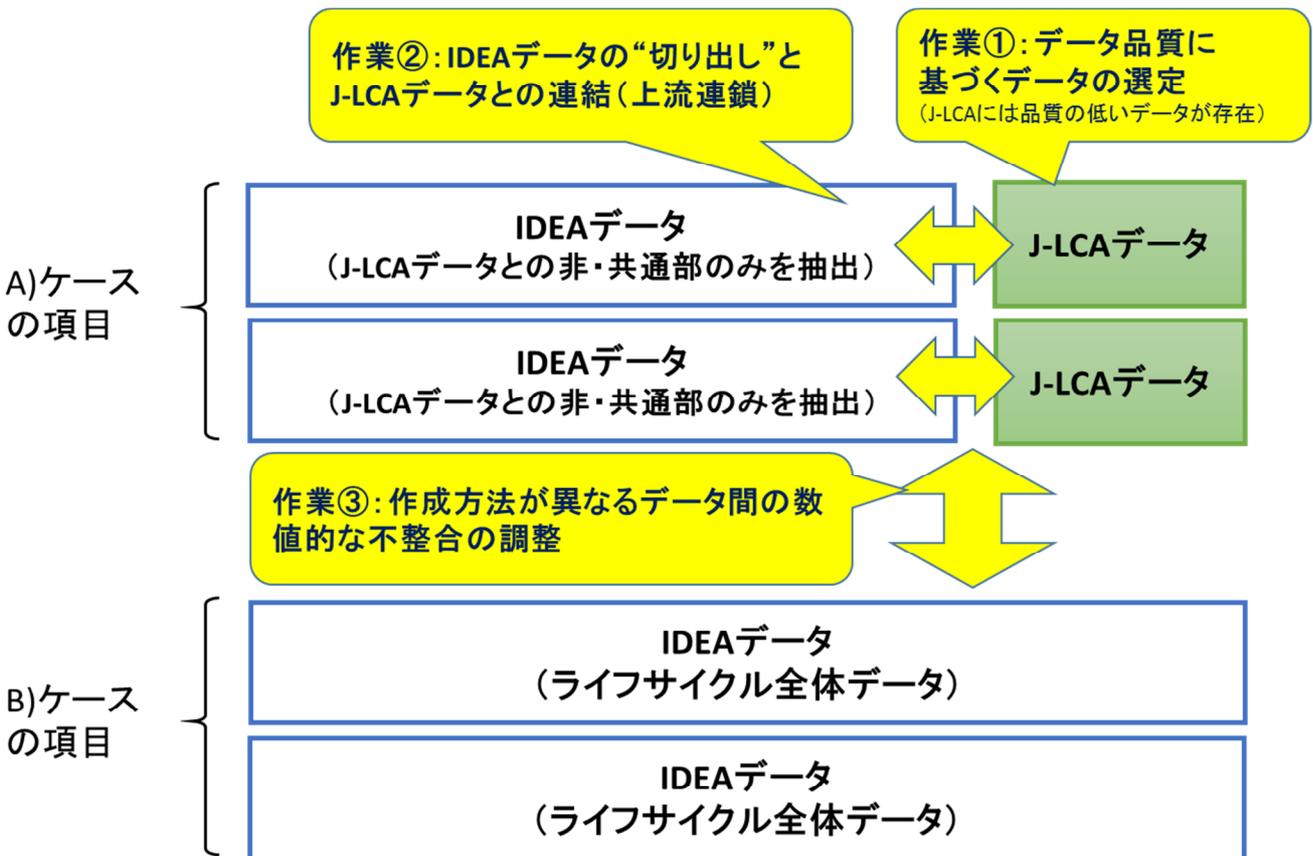
正確性	J-LCA(工業会データ) > IDEA(統計データ)*
ライフサイクルのカバー率	J-LCA(工業会データ) < IDEA(統計データ)
対応項目数	J-LCA(工業会データ) < IDEA(統計データ)

\* 「正確性」において、学術的にはJ-LCAとIDEAの間に優劣の関係は存在しない。ここでは、産業界において存在する、自ら作成したJ-LCAデータをより正確な値と見なす考え方(J-LCAデータの数値を工業会として「正」としているため、IDEAデータの数値を否定する業界も存在)を採用。



## ■ J-LCAとIDEAの相補的統合の考え方

- A) J-LCAデータとIDEAデータが共に存在する項目(原材料/部品/製品)について、
  - 原則としてJ-LCAデータを採用。
  - J-LCAデータがカバーしないライフサイクル上流は、IDEAデータによって補完。
- B) J-LCAデータが存在しない項目(原材料/部品/製品)については、IDEAデータを採用。



## 平成26年度LCA日本フォーラム収支予算書

## 1 一般事業収支

(単位：円)

	科目	H25年度 予算額	H25年度 決算額	H26年度 予算額	
<b>I</b>	<b>収入の部</b>				
1	会費	17,154,000	16,394,000	16,500,000	@ 100,000 円× 19 工業会 I = 1,900,000 @ 400,000 円× 2 工業会 II = 800,000 @ 600,000 円× 1 工業会 III = 600,000 @ 30,000 円× 21 工業会 III = 630,000 @ 80,000 円× 7 団体 = 560,000 @ 100,000 円× 1 学術組織 = 100,000 @ 50,000 円× 92 優先企業A = 4,600,000 @ 30,000 円× 1 優先企業B = 30,000 @ 80,000 円× 36 一般企業A = 2,880,000 @ 50,000 円× 21 一般企業B = 1,050,000 @ 30,000 円× 44 一般企業C = 1,320,000 @ 30,000 円× 46 大学等 = 1,380,000 @ 13,000 円× 50 個人 = 650,000 @ 7,000 円× 20 LCA学会 = 140,000
2	特別DB利用料	140,000	140,000	140,000	
3	セミナー参加費	200,000	297,000	200,000	
4	雑収入	4,000	76,643	4,000	利息 10,000
<b>当期収入合計(A)</b>		<b>17,498,000</b>	<b>16,907,643</b>	<b>16,844,000</b>	
<b>II</b>	<b>支出の部</b>				
1	委員会関係費	500,000	475,260	500,000	委員謝金 150,000 委員旅費 200,000 会場費 100,000 会議費 50,000
2	研究会活動費	1,500,000	1,267,500	1,500,000	研究会活動費 継続の研究会：3件 新規設置研究会：2件
3	システム維持管理費	4,800,000	4,644,830	2,800,000	データベースサーバー保守・管理費 900,000 レンタルサーバー利用費 200,000 ホームページ更新・管理費 700,000 DB調査費 (特別収支へ移行) 1,000,000
4	セミナー・シンポジウム	3,300,000	3,103,374	3,500,000	講師謝金・旅費 700,000 会場費 1,500,000 印刷費 800,000 会議費 500,000
5	LCA表彰費	1,500,000	1,755,932	1,500,000	委員会、表彰式、講演一式 1,500,000
6	広報誌発行費	500,000	198,000	1,800,000	原稿料 300,000 翻訳費 1,500,000
7	国際対応活動費	2,050,000	986,782	2,030,000	海外調査 1,500,000 TC207協力金 (H26年度分) 30,000 第11回エコバランス国際会議 500,000
8	日本LCA学会会費	100,000	100,000	100,000	日本LCA学会 (H26年分) 100,000
9	事務局人件費	2,850,000	2,506,000	2,746,000	事業支出額の約20% 2,746,000
10	事務局経費	630,000	480,682	600,000	事務局人件費の約15% 400,000 実費経費 200,000
<b>当期支出合計(B)</b>		<b>17,730,000</b>	<b>15,518,360</b>	<b>17,076,000</b>	
<b>当期収支差額 (A-B)</b>		<b>△ 232,000</b>	<b>1,389,283</b>	<b>△ 232,000</b>	
<b>前年度繰越金 (C)</b>		<b>5,265,538</b>	<b>5,265,538</b>	<b>6,654,821</b>	
<b>次期繰越収支差額 (A-B+C)</b>		<b>5,033,538</b>	<b>6,654,821</b>	<b>6,422,821</b>	

## 2 特別収支 (システム更新積立金)

(単位：円)

	科目	H25年度 予算額	H25年度 決算額	H26年度 予算額	
<b>I</b>	<b>収入の部</b>				
		0	0	1,000,000	一般収支の「DB調査費」より移行
<b>当期収入合計(D)</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1,000,000</b>	
<b>II</b>	<b>支出の部</b>				
	JLCA-DB統合事業費	0	0	9,900,000	データベース整備事業 (仮称)
<b>当期支出合計(E)</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>9,900,000</b>	
<b>当期収支差額 (D-E)</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>△ 8,900,000</b>	
<b>前年度繰越金 (F)</b>		<b>8,968,700</b>	<b>8,968,700</b>	<b>8,968,700</b>	
<b>次期繰越収支差額 (D-E+F)</b>		<b>8,968,700</b>	<b>8,968,700</b>	<b>68,700</b>	



## 平成26年度LCA日本フォーラム役員

(敬称略)

## 会長：

山本 良一 東京大学 名誉教授  
東京都市大学 環境学部 特任教授

## 副会長：

稲葉 敦 工学院大学 工学部 教授

足立 芳寛 東京工科大学 客員教授

古賀 剛志 特定非営利活動法人エコデザイン推進機構 理事

片瀬 裕文 経済産業省 産業技術環境局 局長

(新) 伊勢 清貴 一般社団法人日本自動車工業会 環境委員会 委員長  
トヨタ自動車株式会社 取締役・専務役員

(旧) 奥平 総一郎 トヨタ自動車株式会社 専務役員

(新) 小倉 康嗣 一般社団法人日本鉄鋼連盟  
環境・エネルギー政策委員会 委員長  
JFEスチール株式会社 代表取締役副社長

(旧) 進藤 孝生 新日鉄住金株式会社 代表取締役社長

小川 賢治 一般社団法人日本経済団体連合会  
環境安全委員会 廃棄物・リサイクル部 部会長代行  
太平洋セメント株式会社 常務執行役員

## 監事：

笠井 清 一般社団法人日本化学工業協会 技術部 部長

二神 龍太郎 キヤノン株式会社 環境統括センター 環境推進部 部長



## 平26年度 LCA日本フォーラム 運営委員会委員名簿

	氏名	組織名	所属	役職
1	委員長 稲葉 敦	工学院大学	工学部 環境エネルギー化学科	教授
2	副委員長 古賀 剛志	特定非営利活動法人 エコデザイン推進機構		理事
3	副委員長 田村 一之	一般社団法人日本鉄鋼連盟	技術・環境本部	本部長
4	副委員長 南原 智彦	三菱電機株式会社	環境推進本部	本部長
5	委員 足立 芳寛	東京工科大学 一般社団法人機械振興協会		客員教授 副会長 技術研究所長
6	委員 石谷 久	東京大学		名誉教授
7	委員 國部 克彦	神戸大学	大学院 経営学研究科	教授
8	委員 平尾 雅彦	東京大学	大学院工学系研究科 化学システム工学専攻	教授
9	委員 水谷 広	日本大学	生物資源科学部	教授
10	委員 伊坪 徳宏	東京都市大学	環境学部 環境マネジメント学科	教授
11	委員 成田 暢彦	名古屋産業大学	環境情報ビジネス学科	教授 学部長・学科長
12	委員 鷺尾 修司	一般社団法人日本ガス協会	環境部	部長
13	委員 荒井 宏昭	一般社団法人日本自動車部品工業会	技術部	技監
14	委員 佐藤 実	一般社団法人電子情報技術産業協会	環境部	担当部長
15	委員 笠井 清	一般社団法人日本化学工業協会	技術部	部長
16	委員 笠原 隆男	石油化学工業協会	業務部 兼 企画部	担当部長
17	委員 古條 克幸	一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会	環境部	担当部長
18	委員 吉良 雅治	一般社団法人日本産業機械工業会	産業機械第一部 兼 技術部	部長
19	委員 小竹 忠	一般社団法人日本自動車工業会	環境統括部	統括部長
20	委員 佐野 正之	一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会	環境・省エネ部	担当部長
21	委員 田和 健次	石油連盟	技術環境安全部	部長
22	委員 葉石 善一	一般社団法人日本建設業連合会	建築部	建築部長
23	委員 津崎 英男	電気事業連合会	立地環境部	副部長
24	委員 細川 浩之	一般社団法人セメント協会	生産・環境部門	リーダー
25	委員 松浦 弘之	一般社団法人日本ガス石油機器工業会		事務局長
26	委員 中野 直男	一般社団法人日本アルミニウム協会		部長
27	委員 大石 美奈子	公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会		理事 環境委員長
28	委員 小野寺 浩幸	株式会社日立製作所	地球環境戦略室	室長
29	委員 竹山 典男	株式会社東芝	環境推進室	参事
30	委員 端谷 隆文	富士通株式会社	環境本部	シニアディレクター
31	委員 二神 龍太郎	キヤノン株式会社	環境統括センター 環境推進部	部長
32	委員 中村 二郎	NTT環境エネルギー研究所	環境推進プロジェクト	プロジェクトマネージャ
33	委員 小見山 康二	経済産業省 産業技術環境局	環境経済室／環境調和産業推進室	室長

平成26年度 LCA日本フォーラム LCA/DB委員会名簿

(順不同・敬称略)

	氏名	組織名	所属	役職
1 委員長	平尾 雅彦	東京大学	大学院工学系研究科 化学システム工学専攻	教授
2 副委員長	小野 透	新日鐵住金株式会社／一般社団法人日本鉄鋼連盟	技術総括部	上席主幹
3 委員	原田 幸明	独立行政法人物質・材料研究機構	元素戦略材料センター	特命研究員
4 委員	松野 泰也	東京大学	大学院 工学系研究科	准教授
5 委員	田原 聖隆	独立行政法人産業技術総合研究所	安全科学研究部門	グループ長
6 委員	笠井 清	一般社団法人日本化学工業協会	技術部	部長
7 委員	金子 一彦	株式会社荏原製作所／一般社団法人日本産業機械工業会	企業リスク管理統括部 環境推進室	グループ長
8 委員	町田 智英	一般社団法人日本ガス協会	環境部 地域環境グループ	マネジャー
9 委員	野村 正義	昭和電工株式会社／一般社団法人日本アルミニウム協会	技術本部 環境安全室	スタッフマネージャー
10 委員	細川 浩之	一般社団法人セメント協会	生産・環境部門	リーダー
11 委員	鈴木 道哉	清水建設株式会社／一般社団法人日本建設業連合会	技術研究所環境エネルギー技術センター	上席研究員
12 委員	岸田 正俊	矢崎総業株式会社／一般社団法人日本自動車部品工業会	品質管理室 環境企画部	主管
13 委員	村松 佳孝	一般社団法人電線総合技術センター	研究開発グループ	グループ長
14 委員	長縄 肇志	塩ビ工業・環境協会	技術部	部長
15 委員	二見 達也	日本鉱業協会	技術部	次長
16 委員	齋藤 潔	一般社団法人日本電機工業会	環境部 地球環境保全第一課	課長
17 委員	楠野 春彦	日新製鋼株式会社／ステンレス協会	技術総括部 環境・省資源推進室環境・	主任部員

平成26年度 LCA日本フォーラム情報企画委員会

(順不同・敬称略)

	氏名	組織名	所属	役職
1 委員長	伊坪 徳宏	東京都市大学	環境学部 環境マネジメント学科	教授
2 委員	和泉 昭宏	一般社団法人プラスチック循環利用協会	調査研究部	環境影響評価部長
3 委員	長谷川 浩	大日本印刷株式会社	環境安全部	シニアエキスパート
4 委員	中橋 順一	旭化成株式会社	環境・安全部	副部長
5 委員	前川 均	株式会社日立製作所 情報・通信システム社	経営戦略室 環境推進本部 環境戦略センタ	シニアエキスパートスタッフ
6 委員	端谷 隆文	富士通株式会社(日本LCA学会 企画委員会委員長)	環境本部	シニアディレクター
7 委員	木村 祐一	株式会社リコー	環境推進本部 社会環境室 企画グル	スペシャリスト
8 委員	菊池 康紀	東京大学 統括プロジェクト機構	「プラチナ社会」総括寄付講座 化学システム工学専攻(兼任)	特任講師
9 委員	吉村 祐美	東洋製罐株式会社	環境・品質保証・資材本部 環境部	
10 委員	大橋 憲司	株式会社資生堂	CSR部 環境企画室	
11 委員	小野 光司	日本生活協同組合連合会	環境事業推進室	

平成26年度 LCA日本フォーラム研究活動委員会

(順不同・敬称略)

No	氏名	組織名	所属	役職
1 委員長	水谷 広	日本大学	生物資源科学部	教授
2 委員	伊香賀 俊治	慶應義塾大学	理工学部 システムデザイン工学科	教授
3 委員	高木 敏宏	TOTO株式会社	総合研究所 研究統括G	グループリーダー
4 委員	醍醐 市朗	東京大学	大学院工学系研究科 マテリアル工学専攻	特任准教授
5 委員	竹山 典男	株式会社東芝	環境推進部 製品環境推進担当	グループ長
6 委員	小松 郁夫	東洋製罐株式会社	環境品質保証・資材本部 環境部	課長

平成26年度 LCA日本フォーラム表彰委員会

(順不同・敬称略)

No	氏名	組織名	所属	役職
1 委員長	石谷 久	東京大学 名誉教授		
2 副委員長	足立 芳寛	一般社団法人機械振興協会東京工科大学		理事 技術研究所 次長 客員教授
3 副委員長	小川 賢治	太平洋セメント株式会社		常務執行役員
4 委員	岩間 芳仁	一般社団法人日本経済団体連合会	環境本部	環境本部長
5 委員	内山 洋司	筑波大学大学院	システム情報系 (構造エネルギー工学域)	教授
6 委員	國部 克彦	神戸大学大学院	経営学研究科	教授
7 委員	竹本 裕介	日刊工業新聞社	編集局	編集局長
8 委員	大石 美奈子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会		理事 環境委員長
9 委員	小見山 康二	経済産業省	産業技術環境局	室長
10 委員	傘木 和俊	一般社団法人産業環境管理協会		執行理事

平成26年度 LCA日本フォーラム表彰選考ワーキンググループ

(順不同・敬称略)

No	氏名	組織名	所属	役職
1 委員長	成田 暢彦	名古屋産業大学	環境情報ビジネス学科	教授学部長・学科長
2 委員	中嶋 道靖	関西大学	商学部 副学部長	教授
3 委員	中野 加都子	神戸山手大学	現代社会学部 総合社会学科	教授
4 委員	宇郷 良介	湘南工科大学 工学部	人間環境学科	教授
5 委員	芝池 成人	東京工科大学	コンピュータサイエンス学部	教授
6 委員	玄地 裕	独立行政法人産業技術総合研究所	総務本部 人事部 人材開発企画室	室長
7 委員	端谷 隆文	富士通株式会社	環境本部	シニアディレクター
8 委員	根村 玲子	公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会		環境委員



## LCA日本フォーラム規約

(名称)

第1条 本会は、LCA日本フォーラム（以下「フォーラム」という。）と称する。

(目的)

第2条 フォーラムは、我が国におけるLCA情報センターの役割を果たすことを目的として、経済産業省プロジェクトとして構築されたLCAデータベース（以下、「データベース」という。）の管理運営を行うとともに、学際的、業際的視点に立ち、ライフサイクルアセスメント（以下「LCA」という。）の研究の成果および情報の集積、LCA関係者間の交流促進、並びにLCAの啓発・普及活動を推進することとする。

(事業活動)

第3条 フォーラムは、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1) LCAデータベースの維持管理の運営
- (2) 会員へのLCA関連情報提供
- (3) 会員間の交流活動としてのセミナー等の開催および国際交流の実施
- (4) LCA研究の場の提供およびLCA標準化への貢献
- (5) 前各号のほか、目的達成に必要な事業

(会員)

第4条 フォーラムの会員は、工業会Ⅰ会員、工業会Ⅱ会員、工業会Ⅲ会員、団体等会員、学術組織会員、優先企業会員、工業会Ⅱ登録企業会員、一般企業会員、大学研究室等会員および個人会員とする。

- 2 工業会Ⅰ会員は、データベース構築に協力した工業会であって、基本経費部分に協力し、利用経費部分については工業会会員企業の自由意思に任せる工業会。
- 3 工業会Ⅱ会員は、データベース構築に協力した工業会であって、基本経費部分に協力するとともに、当該工業会会員企業のデータベース利用経費部分について工業会として協力する工業会。
- 4 工業会Ⅲ会員は、データベース構築に協力した工業会の内、年間事業規模が別に定める額以下の工業会であって、基本経費部分に協力する工業会。
- 5 団体等会員は、データベース構築に参画しなかった工業会、国公私立の研究機関等であって、基本経費部分に協力するとともに、自らのLCA活動としてデータベース利用を行う組織。
- 6 学術組織会員は、フォーラムの目的および活動に賛同し、基本経費部分に協力する組織。
- 7 優先企業会員は、工業会Ⅰ会員の会員企業であって、データベース利用を行う企業。
- 8 工業会Ⅱ登録企業会員は、工業会Ⅱ会員により登録された企業であって、データベース利用を行う企業。
- 9 一般企業会員は、工業会Ⅰ会員および同Ⅱ会員いずれの工業会の会員企業でなく、基本経費部分に協力するとともにデータベース利用を行う企業。
- 10 大学研究室等会員は、大学の研究室およびそれに準じるグループ又は非営利組織であって、基本経費部分に協力するとともに、自らのLCA活動としてデータベース利用を行う組織。
- 11 個人会員は、いずれの組織に属さない個人であって、基本経費部分に協力するとともに、データベース利用を行う者。

(会費)

第5条 会員は、総会において別に定める会費を納入しなければならない。

(入退会)

第6条 フォーラムの会員になろうとする者は、別に定める入会申込書を会長に提出し、運営委員会の承認を得なければならない。

- 2 会員がフォーラムを退会するときは、別に定める退会届を会長に提出しなければならない。

3 会員が次の各号の一つに該当するときは、退会したものとします。

- (1) 法人又は団体が解散又は破産したとき。
  - (2) 死亡又は失踪宣告を受けたとき。
  - (3) 会費を納入せず、督促後6ヶ月を経ても納入しないとき。
- (除名)

第7条 会員が別に定めるLCAデータベース運用規則又は会費規則に違反したときは、運営委員会の3分の2以上の議決をもって除名することができる。

(会長、副会長および監事)

第8条 フォーラムに次の役員を置く。

- (1) 会長1名および副会長若干名
  - (2) 監事2名
- 2 会長は、フォーラムを代表し、会務を統轄する。
  - 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を代行する。
  - 4 監事は、フォーラムの収支決算書の監査を行う。
  - 5 会長、副会長および監事は、総会において選任する。
  - 6 会長、副会長および監事の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(総会)

第9条 総会は会員をもって構成する。

- 2 総会は、会長、副会長および監事の選任、事業計画、予算・決算の承認、その他重要事項を審議し、決定する。
- 3 総会は、毎年1回以上開催する。
- 4 総会は、構成員の2分の1以上の出席をもって構成し、出席者の過半数の同意で議決するものとする。

(運営委員会)

第10条 フォーラムに運営委員会を置き、次の者をもって構成する。

- (1) 委員長 1名
  - (2) 副委員長 1名
  - (3) 委員 約20名
- 2 運営委員会の委員長、副委員長および委員は、会員の内から会長が選任する。
  - 3 運営委員会は、フォーラムの活動に関し必要な事項を処理し、委員会に付議する事項を審議する。
  - 4 運営委員会は、運営委員長が必要と認めた場合開催する。
  - 5 第8条第6項の規定およびただし書きは、運営委員会委員長、副委員長および委員の任期に準用する。
  - 6 第9条第4項の規定は、運営委員会の定足数及び議決に準用する。

(部会および委員会)

第11条 運営委員会の議決により、フォーラムに専門部会および専門委員会を置くことができる。

(事務局)

第12条 フォーラムの事務局は、社団法人産業環境管理協会に置く。

(規約の改正)

第13条 本規約の改正は、総会の議決により行う。

## 附 則

1. この規約は、平成7年10月25日より施行する。
2. この規約の改正は、平成16年4月1日より施行する。
3. この規約の改正は、平成17年4月1日より施行する。